

北久米小だより1月

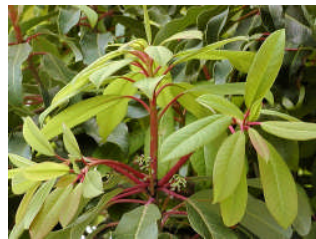
平成23年1月25日
松山市立北久米小学校
松山市福音寺町9番地
(089) 976-8431

「ゆずり葉の心」を大切に!

校長 西岡 博幸

新年を迎え、元気に登校してくる子どもたちの姿には、心身の成長の様子を痛感されます。始業式では、代表の子が本年の決意を立派な態度で発表してくれるなど、本校の重点目標である「表現力の育成」の着実な成果を感じさせられ、うれしく思いました。

さて、先日の朝会で「ゆずり葉」についての次のようなお話をしました。



この葉を知ってますか?この葉は「ゆずり葉」というものです。今日はこの「ゆずり葉」についてお話をしたいと思えます。このゆずり葉の木は、比較的温かな所を好むのですが、寒い時期でも葉の色も濃く、厚く、見ていても何だかたくましさを感じます。この木の特徴は「古い葉と新しい葉とが交代する」ということなのです。冬の間寒さに耐えた葉は、春になると散ってしまいます。でも、その落ちた葉の後には、次に出てくる若芽がちゃんと育っているのです。

古い葉は、冬の寒さから若芽を守るという役割を果たして散るのです。そのような様子が、自らの命を次にゆずっていくように見えるということで「ゆずり葉」と呼ばれるのです。

ところで、このゆずり葉の姿は、ちょうど今の皆さんの姿に似ていると感じます。通学班では、5年生が通学班長として通学班の世話をしてくれるようになりました。学校行事も6年生に代わって5年生が中心に運営されるようになります。まさに「ゆずり葉」なんですね。6年生の皆さんは、この1年、学習や運動面等で素晴らしい活動を行い、北久米小学校生としての自信や誇りを高めてくれました。それが6年生の「ゆずり葉の心」だと思います。5年生の皆さんは、ちょうどこのゆずり葉のように6年生の皆さんに大事に守ってもらいながら十分に育った若い芽です。きっと、素晴らしい学校をつくってくれる中心になると期待しています。他の学年の皆さんもいろいろ学んだこと、考えたことをゆずって、次の学年に心をつないでいってほしいと思えます。

ところで、小学生の時にゆずり葉の詩を学ばれた保護者の方もおられるのではないのでしょうか。親子で読んでいただき、感想を述べ合うのも意義あることだと思います。

子供たちよ。
これはゆずり葉の木です。
このゆずり葉は
新しい葉が出来ると
入り代わって古い葉が落ちてしまうのです。
こんなに厚い葉
こんなに大きい葉でも
新しい葉が出来ると無造作に落ちる
子供たちよ
新しい葉にいのちをゆずってー
お前たちは何をほしげにしないで
すべてのものがお前たちにゆずられるのです
太陽のめぐむるものは絶えません。
ゆずられるものは絶えません。
かがやける大都会も
そっくりお前たちがゆずり受けるのです。
読みきれないほどの書物も
幸福なる子供たちよ
お前たちの手はまだ小さいけれどー。
世のお父さん、お母さんたちは
何一つ持ってゆかない。
みんなお前たちにゆずってゆくために
いのちあるもの、よいもの、美しいものを、
一生懸命に造っています。
今、お前たちは気が付かないけれど
ひとりではいのちが延びる。
鳥のようにうたい、花のように笑っている間に
気が付いてきます。
そして子供たちよ。
もう一度ゆずり葉の木の元に立つて
ゆずり葉を見るときが来るでしょう。

ゆずり葉

河井 酔茗

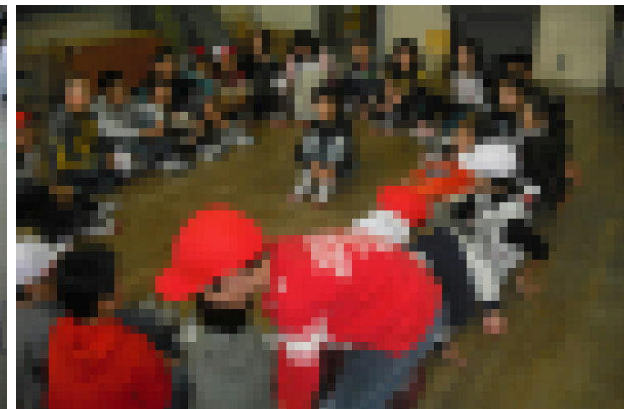
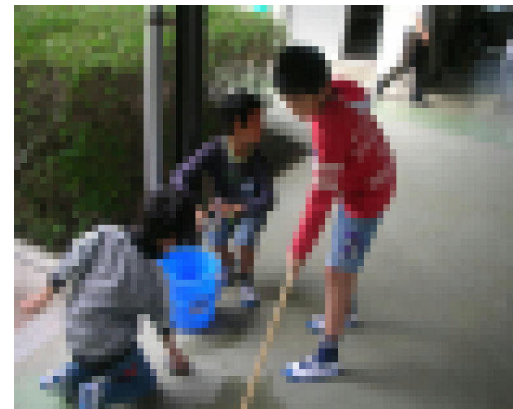
縦割り班活動

異年齢集団活動担当 田中 正之

今年度の縦割り班活動も、終盤を迎えています。1月17日には縦割り班清掃の交代があり、現在は赤組が縦割り班清掃をしています。高学年の子が低学年の子に優しく掃除の仕方を教える姿が多く見られ、低学年の子の掃除も上手になってきました。

2学期には、交流弁当や昼休みに縦割り班遊びをしました。交流弁当では、弁当を食べた後、自然に縦割り班で遊んでいる班が見られました。縦割り班遊びでは縦割り班の班長が計画を立て、けいどろやドッジボール等を行いました。ドッジボールでは、高学年の子は利き腕で投げないというルールにしたり、高学年の子がキャッチしたボールを低学年の子に渡して、投げさせてあげたりしていました。

集会委員会が企画した縦割り班対抗のドッジボール大会でも、子どもたちの生き生きとした表情をたくさん見る事ができました。



このような活動を通して、子どもたちに少しずつ思いやりの心が育ってきているようです。2月2日にも、昼休みを使った縦割り班での遊びをする予定です。異年齢の友達と接することでかかわり合う力が更に育ってくれることを祈っています。